

思いをつなぐ50周年

世田谷区立給田小学校 学校運営委員会通信

平成24年度 第5号
平成24年11月12日
世田谷区立給田小学校
学校運営委員会
委員長 井上健

9月13日、校長室にて第5回学校運営委員会が開かれました。

はじめに、土橋校長より、9月10日から1週間、東京都市大学の学生4名が教育実習（観察実習）を行ったことが報告され、学生の指導にみえた助教の渡邊大輔先生が紹介されました。その後、14日に実施した「祖父母会食会」について「今回から、祖父母が会食会に参加している児童（5・6年生）から配膳係を選ぶように配慮した」との話がありました。

次に、各委員より、サマースクール行なうための感想・意見が述べられました。多田委員から「今年度のサマースクールは15講座開講された。そのうち13講座の講師は、過去に講座を開いてくださった方だった。一度講師を経験すると、子どもたちの一生懸命に取り組む姿にふれて、またやりたいという気持ちが高まってくるように思う。今年、運営面でも工夫したことは、「開講式」を行って講師やボランティアのみなさんが交流する時間を設けたり、中学生のボランティアには事前にボランティアに入る講座の希望を聞いたことだ。他方で、講師の他に運営スタッフを募集したが応募者はなく、今後、サマースクールを継続してい

くための課題が残った」と報告がありました。次年度に向けての課題については、次回以降委員会で検討していくことになりました。

井上委員長からは「サマースクールは多くの学校で行われているが、給田小のそれはビジョンにもとづいて企画・運営されていることに特色がある。そのことをぜひ、大事にしてほしい。今年度は、全員が参加する開講式を行ったり、講座終了後に参加者から感想を聞く時間を取るように改善した点は良かった。運営スタッフについては、具体的な仕事内容やそれをするごとの意味などを見えるようにする工夫が必要ではないか」との提言がありました。

続いて、リエゾンオフィスから次のような活動報告がありました。「5年生の総合的な学習の時間『Q-den Walkerを作ろう』の取り組みにあたり、地域で長く仕事をされている方がたの仕事場にかがいを、協力をお願いをした。その結果、24の事業所や商店に、子どもたちによる取材の協力を快諾していただくことができた。子どもたちと地域の方ががスムーズに交流できるように、授業にも参加してサポートしていきたい」

給田青穂会会長でもある田中委員からは10月8日に行われる「給田町会大運動会」に関して、「年々、参加する子どもが増えているため、今年はずも向けの競技を増やした。このことは、給田小が地域運営学校になり、子どもたちに地域行事への参加を促してきた成果と言えるのではないか」との発言がありました。最後に、オブザーバーとして参加され

た東京都市大の渡邊先生より「サマースクールが継続されていることや地域が見えてくる授業がさまざま実施されていることに感心した。これらが普段の授業にどう繋がっていくのか、非常に楽しみ」との感想が述べられました。

10月11日、校長室にて第6回学校運営委員会が開かれました。

はじめに、土橋校長より、「先生方と学校運営委員が連携しやすい環境を作るため、定例職員会議で学校運営委員会での話し合いの内容を伝えることにした」との報告がありました。

次に、前回からの継続で、サマースクールについての検討が行われました。

学校運営委員だけでは運営が厳しいとの課題については、各委員から、「PTA運営委員会にて現状を伝え意見を聞いてはどうか」「高学年児童を実行ボランティアの一員にすることも可能ではないか」「中学生ボランティアをもっと活用できるのではないか」など、さまざま提案が出されました。土橋校長からは「単なるイベントにならないようにビジョンを意識して考えていく必要があるが、関わる人びとに任せることで、『運営委員会のサマースクール』から『私たちのサマースクール』へ広がっていくのではないか」との提言がありました。

続いて、50周年記念式典・祝賀会をそれぞれ感想を交えながら振り返りまし

た。「周年行事の準備を進めていく中で、教員と地域の方がたとの新たな関係性が構築できた」（片山副校長）、「式典で子どもたちが『よろこびの言葉』を地域の方と先生方の座席に向かって左右と後ろの3つの方向に分かれて話した。出席者の多さに驚くとともに、たくさんの方に見守られていることを実感したようだ」（鶴岡先生）

「かつての給田小教職員の方がたが式典中に映し出された1年〜4年生のビデオを見て、今も『はだし』が続いていることを知り感激していた。また、来賓の方から、子どもたちのメッセージ入りの方次第について、『手作り感があって、給田らしい温かさが感じられますね』とおほめのことを言っていた」（リエゾン・清水）

このほか、お神輿の巡行を仕切ってくださった烏山町会青年部、上祖師谷中吹奏楽部の生徒も、そのほとんどが給田小の卒業生で、卒業しても給田小に関わることができたことが嬉しそうだったとの声も聞かれました。

さらに、PTA50周年事業実行委員でもある若林さんからは「給田小がCSであることを意識して準備をすすめて、大太鼓やお神輿はCSだからこそ実現出来たことだと思つ」との報告がありました。

最後に、井上委員長より「給田小の50周年において、地域運営学校としての歴史はまだ5年である。でも、子どもたちが大人になって、100周年を迎えるときには地域運営学校としての歴史の方が長くなる。先日の式典も祝賀会も、素晴らしい会になったが、私たち学校運営委員会としては、何が『地域運営学校』の活動の成果なのかを見極めていくことが重要である」との提言がありました。

議題

1. 学校長より
・近況報告
2. 委員長より
3. 委員より
・夏休みの活動を振り返って
4. リエゾン・オフィスより
・Q-den Walker他 活動報告

出席者

井上、多田、田中、鈴木、溝口、土橋、鶴岡、安部、東京都市大学・渡邊先生、リエゾン・オフィス、清水、岡本、若林

議題

1. 学校長より
・近況報告
2. 委員長より
3. サマースクールについて
・次年度の実施について
4. 50周年記念式典・祝賀会を終えて
5. 通信第5号検討

出席者

井上、多田、芝崎、程原、鈴木、溝口、土橋、片山、鶴岡、安部、若林、リエゾン・オフィス、清水、岡本、若林

10月6日土曜日、地域の皆さまのご協力により、盛大な50周年記念式典・祝賀会が行われました。

澄み切った青空がまさに天高く感じられる秋の好天のもと、1年生から4年生は記念Tシャツを着て登校しました。



一番乗りでお祝いにきてくれたのは【お神輿】です。子どもたちが教室で【祝歌】を歌っていると、第9グラウンドの向こうからドーン、ドーンと厳かな音響がせながら【大太鼓】の音場です。「見そすこいよー」「こわあ大きいー」バルコニーから顔を出し、子どもたちは大興奮、一気にお祝いムードに包まれました。下校時には、この大太鼓が子どもたちの目の前で演奏され、迫力のある音色はまさに圧倒的でした。その日の半纏に身を包んだ地域の大人たち（烏山上町青年部、そして給田青穂会のみなさま）の姿はとてもカッコよく、子どもたちの憧れとなったことでした。



5・6年生が体育館で式典の準備をしている頃、古民家からはお客さまをお迎えする【お囃子】の音色が

聞こえてきました。演奏しているのは給田囃子連のみなさまです。正門から中庭を通り、体育館へと誘うルートはクラスごとに花々を植えたプランターで彩られ、校舎の中では給田小・切り絵ボランティアの作品【によっき】と【べったん】が目と和ませています。



式典には、区長を始めとする行政関係者、世田谷区内の教職員・PTA関係者など、200名を超えるみなさまがいらしてくださいました。

午前10時半、厳粛な雰囲気の中、創立50周年記念式典が始まりました。ステージの中央に飾られているのは樹齢100年を越える松の盆栽です。土橋校長のたつての希望で、麻生則行さん（第6代PTA会長、千歳民俗資料保存会会長）



式典前日、大切に運び込まれた盆栽

創立50周年を迎えることができました

からお借りしたものです。式辞や祝辞に続き、5・6年生児童による【よろこびの言葉】が披露されました。式典に参加できなかった1年生から4年生も、ビデオで全員登場です。元気がかわいらしい姿に、会場から笑いが起こる場面もあり、先生方のアイデア溢れる、給田小ならではの式典となりました。午前11時45分に式典が終了し、祝賀会が始まるまでの1時間もイベントは盛りだくさんです。ランチルームでは、この半年間の給田小の様子を特集したスペシャルビデオの上映会です。作成した卒業生保護者の佐山さんの給田小に対する愛情が込められた感動的な作品でした。



クラブハウスは、50年の歴史を振りかえる資料室に様変わり。ここにも、子どもたちが作った個性あふれる【によっき】と【べったん】があちらこちらに飾られています。校庭では、再び大太鼓が鳴り響き、5・6年生は来賓と一緒にその音色を堪能しました。給田小といえば、【子どもばやし】。大勢の来賓の方を前に緊張しながらも素晴らしいお囃子を披露した子どもたちに大きな拍手が送られ、華やかに祝賀会が始まりました。

岩谷教育委員長と第2代PTA会長の池亀一夫さんによる祝辞の後は、日本女子体育大学チアリーディング部がはじける笑顔で飛び込んできました。元気がいっぱい、のアトラクションで会場は大いに盛り上がり、続いて行われた鏡開きでは、教育委員長・区議議員、町会のみなさま、歴代校長先生、歴代PTA会長が勢ぞろい。給田小の法被を着てずらりと並び姿に50年の重みを感じます。



第6代山口育朗校長先生の乾杯の合図で祝宴の始まりです。保護者の手によるプリザーブドフラワーで彩られたテーブルに懐かしい顔ぶれが集まり、話題はつきとにありませぬ。ステージでは、烏山芸能保存会によるお囃子が披露され、会場は和やかな雰囲気になりました。



突然、威勢のいい笛の音が響きます。烏山上町会青年部の仕切りで、給田小の先生方が



神輿を先導する高張提灯を持つ卒業生

お神輿を担いで登場です。お囃子の流れの中「ホイサ・ホイサ」とお神輿が巡行し、地域の方も加わって、会場は掛け声が響いてお祭りムード満載となりました。祝賀会は和やかに続きます。給田小コーラス部「コールフェルダー」と先生方が一緒に歌ったり、手拍子を打ったり、会場全体が一つになって楽しい時間を過ごしました。

最後に、麻生則行さんのご発声で、全員で万歳三唱。これで祝賀会終了！と思いきや、なんと、校長先生を胴上げです！地域のみならずさまに支えられた給田小の50周年記念式典・祝賀会は、盛況のうち幕を閉じました。



お揃いの法被で鏡開き

一番に心がけたことは、「児童・教職員・保護者・地域が一緒になってお祝いする」ということでした。それこそが【給田小らしい】創立50周年になると考えました。式次第の表紙1枚1枚に、式典に参加できない1・2年生がお礼のメッセージを書き、3・4年生がシンボルの【によっき】と【べったん】のイラストを描きました。子どもたちにとっては、たいへんな作業だったに違いありませんが、「だれに届くかなあ？」とわくわくしながら作業をしたことでしょう。



鳥山芸能保存会のみなさま

今回の50周年記念式典・祝賀会に、私は「PTAの実行委員」として準備の段階から参加することができたのですが、



給田小コーラス部「コールフェルダー」

おかげで、式典・祝賀会を無事に開催することができました。ありがとうございました。今回の式典・祝賀会は、まさに、子どもたちを中心に、地域と学校と保護者が繋がっていることを実感した1日でした。「繋がる給

また、本当にたくさんのお礼のメッセージカードをありがとうございました。そして、写真で登場いただいたきました多くの地域のみなさまのおかげで、式典・祝賀会を無事に開催することができました。ありがとうございました。



先生がたによる「祝歌」の合唱



校長先生を先頭にお神輿を担ぐ先生方

【べったん】のイラストを描きました。子どもたちにとっては、たいへんな作業だったに違いありませんが、「だれに届くかなあ？」とわくわくしながら作業をしたことでしょう。

みなさまのおかげで、給田小は

それらを拾ってくれた3人の児童のいる学級からは、クラス全員で給田小をお祝いしてくれている写真が届いています。職員室前の太い柱に、風船が飛んでいった先のマップや写真が貼ってありますので、興味のある方はぜひご覧ください。



10月16日(火)、給田小校庭にて、50周年を祝って子どもたちによる風船飛ばしが行われました。

手書きのメッセージカードを貼りつけた風船を一人ひとり握りしめて、全員で祝歌を歌ってから一斉に手を放しました。色とりどりの風船は、子どもたちの歓声とともに、雲ひとつない青空に高く舞い上がりました。みんなが体験した美しい光景は、子どもたちの思い出にいつまでも残ることでしょう。

後日、風船を拾ってくださった方から続々と連絡が入り、風船が西は調布市染地、東は千葉県の銚子市や茨城県の鹿嶋市まで飛んでいったことがわかりました。糸が絡まって束で飛んでいった風船が江戸川区の学校に落ちて、



千歳民俗資料保存会会長・麻生則行様のご発声で「万歳三唱」

田・強い給田」をスローガンにかけ、6年目を迎えた地域運営学校としての成果を感じてお



宙に舞う校長先生！

地域のみなさんによる胴上げ

最後になりましたが、大太鼓とお神輿を快くお貸しくださいました六



鈴木先生 財間先生

4年生社会科「昔の道具」

千歳民俗資料保存会から借りてきた道具

給田小の正門を入ってすぐにある「古民家（千歳民俗館）」は、すっかりおなじみですが、その隣に「千歳民俗資料館」があるのをご存知ですか？中を見る機会はないかもしれませんが、そこには、地元千歳民俗資料保存会によって寄贈された約200点にもなる民具や古文書が大切に保存されています。

10月11日（木）、4年生の社会科「昔の道具」の時間を利用して、資料館にある道具を実際に使っていた方がたに直接お話を聞かせていただくことができました。

「田舟」「田草とり」「わら打ち」「こえひしゃく」「鉄びん」「わらじ」「火のし」といった道具がずらりと並べられた会場に、保存会のみなさんが子どもたちの拍手で迎えられて、授業のはじまり、はじまり。

ひとつひとつの道具を掲げて、「これは何をやるものかわかりますか？これはね……」とそれらの道具を使っていた当時のことを思い出しながら、楽しそうにお話してくださっていました。



千歳民俗資料保存会のみなさん

そのいきいきとしたエピソードの数々は、ひととき、子どもたちと先生方を昔の生活にいきなってくれました。お金を払えば便利な道具を簡単に手に入れられる私たちの知らない、手作りの道具と共にあった昔の暮らし

しは、とても興味深いものでした。資料館に静かに並んでいた民具たちも、自分たちが活躍していたころのことをみんなに知ってもらって嬉しかったとちがいがありません。

最後に保存会の方がたから「資料館にある道具は、ご先祖さまが知恵を絞って手作りし、修理しながら大切に使用してきた非常に貴重なものです。小学生の皆さんはこういうたものを勉強の材料として大切に利用してくださいね。そしてこの貴重な有形民俗文化財をいつまでも大事に残していただきたいと思います。『子どもばやし』や『もちつき盆』も形のない民俗文化財として、守り伝えていってください。」と子どもたちにメッセージが伝えられました。



杉田和良さん

伊藤弘康さん

保存会会長 麻生則行さん

この授業の感想に「民具を大事にしようと思った。大きくなったら保存会に入りたい」と書いた子もいたとのこと。保存会の思いは、しっかりと子どもたちの心に届いたのではないのでしょうか。

保存会のみなさんは、古民家のお掃除などでも月に一度給田小に来てくださっています。保存会の方がたと給田小の子どもたちの間に、これからもますます親しみのこもった挨拶がかわされることになりそうです。

給田町会大運動会

10月8日（月）体育の日、第62回給田町会大運動会が烏山小学校で行われました。



給田小学校

が、地域運営学校になって6年目。子どもたちの地域行事への関心も高まってきた様子が感じられます。給田町会の大運動会もこの数年、参加する子どもが増えてきたことを受けて、「子ども競技」の数を増やして、開催されました。

今年から増えた【魚つり】と【アベック競争】。【魚つり】で大はしゃぎしていた子どもたちも、【アベック競争】では恥ずかしそうに手をつないで走る姿が印象的でした。

子どもたちのパワーが町会のみなさんを動かかし、子どもたちにとっても一層楽しみな運動会となりました。

50周年式典の翌々日ということで、その感動もさめないまま、カラフルな給田Tシャツをきた給田小の子どもや保護者、そして先生方もたくさん参加していました。もちろん、今年も給田小を支えるお父さんの会「YAMATO」のみなさんは、お手伝いに参加していました。

小さな子からお年寄りまで楽しめる、給田の町に住んでよかったな、そう思える運動会です。次回は給田小で開催されます。また参加したことのない方は、来年こそ参加してみたいかががで



お母さんと一緒に

楽しかった！

給田町会、婦人部、給田青穂会のみなさま、今年もありがとうございました。

あとがき

給田小創立50周年記念式典・祝賀会が無事成功裏に終了いたしました。ご協力いただいたすべての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

さて、私は某自治体の教育委員会事務局職員として15年来勤務しております。年に数回行われる議会では、議員さんから行政全般に関する質問があります。内容は福祉、土木、都市整備、医療などさまざまな分野にわたりますが、どの自治体でもダントツに多いのが学校教育に関する質問です。当たってしまっただ担当課は庶務作成に大変苦労するのですが、理由は問題意識を持っている、関心があることはもちろんですが、誰もが「学校」というものに通った経験があり、それぞれの学校に対する思いがあり意見を言いやすい、ということが大きいのだと思っています。

今回、50周年事業に携わる中で、いろいろな立場の方と話をする機会がありました。その誰もが少しずつ異なった、けれども、いずれも熱い学校への思いを感じることができました。卒業生の方はもちろんのこと、そうでもない方も自分の卒業した学校を思い、自分たちの給田小学校はこうあってほしい、そんな思いを数多く受け止めました。

50年の間、関わってきた人びとのそれぞれの思い。記念式典・祝賀会ではそのすべての思いを形にすることはできなかったかもしれないけれど、今の給田小学校らしさ、教職員と子どもと保護者・地域とがそれぞれの給田小学校に対する思いを表現することはできたのではないかな、と思っています。

「そして未来へ」。50周年のスローガンに付けた言葉です。これからも未来へ向けて熱い思いはつながっていきます。

学校運営委員
50周年実行委員会委員長

芝崎剛

